

宿泊施設として活用し、物資や食料を供給した。この結果、約950人の作業員が現地で活動可能となり、迅速な復旧が進められた。

重要回線とモバイルの早期復旧

人命救助を目的とした緊急通報回線や医療機関の通信回線などの重要回線は、優先的に復旧が進められた。NTT西日本は「ボイスワープ」サービスを活用し、使用可能な回線に緊急転送を行い、迅速な臨時復旧を実現した。中継伝送路の損傷部分では、ヘリコプターによる空撮で立ち入り困難地域の状況を確認し、応急ルートを速やかに設計。その後、迂回ルートの構築や新規ケーブル敷設を進めた(図表1-5-25、26)。

加えて、災害復旧活動に必要な通信確保に向けては、モバイル通信の復旧を優先した。自治体やNTTドコモをはじめとしたグループ各社の協力も得て、緊急開通に尽力した。これにより、1月17日には立ち入り困難地域を除くモバイル通信の応急復旧が完了した。特にNTTグループが

運用する海底ケーブル敷設船「きずな」の船船上で、NTTドコモとKDDIが共同で携帯電話基地局の設備を設置した船上基地局の運用が大きく貢献した。これにより、陸路での復旧が困難であった輪島市の2つの沿岸エリアが応急復旧した(図表1-5-27、28)。

被災者支援活動とICTの活用

通信インフラの復旧と並行して、NTTグループは避難者への支援活動を展開した。石川県内の避難所にポータブル衛星電話や無料Wi-Fiを提供し、被災者の通信手段を確保した。無料Wi-FiにはStarlinkも活用された。Starlinkは低軌道衛星通信サービスのため、従来の静止衛星よりも遅延が少なく、被災者支援に大きな効果を発揮した。また、スマートフォンとフィーチャーフォンを計1,520台無償提供し、「ドコモ公衆ケータイ」として避難所で利用できる環境を整備した。

さらに、NTT西日本は「被災者生活再建支援システム」を提供。これにより、被災者のり災証明書発行や義援金申

図表1-5-23 ▶能登半島地震：災害対策本部



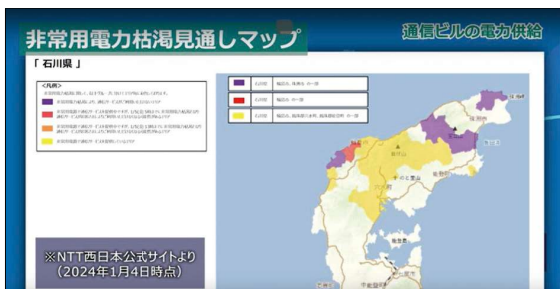
出所：NTT西日本「NTT西日本の災害に対する取り組み事例 令和6年能登半島地震通信サービス復旧活動」(2024年8月7日)

図表1-5-25 ▶ボイスワープ



出所：NTT西日本「NTT西日本の災害に対する取り組み事例 令和6年能登半島地震通信サービス復旧活動」(2024年8月7日)

図表1-5-24 ▶能登半島地震：通信設備への電力供給



出所：NTT西日本「NTT西日本の災害に対する取り組み事例 令和6年能登半島地震通信サービス復旧活動」(2024年8月7日)

図表1-5-26 ▶能登半島地震：中継伝送路の応急復旧



出所：NTT西日本「NTT西日本の災害に対する取り組み事例 令和6年能登半島地震通信サービス復旧活動」(2024年8月7日)をもとに作成